

2025WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 6 (7/25)

7月25日(金)

U23世界選手権3日目。この日はBM2xのFinal D、BW2xのFina Cと2クルーが大会最後のレースに挑むとともに、BM1xのQuarterfinalが行われます。前日は午前中にレースが行われるスケジュールでしたが、この日は午後中心に組まれていたため、クルーごとにコーチとよく相談し、スケジュールを立てて挑みました。

BM2x Final D

スタートでまず日本が飛び出すも、大型クルーのインドネシアがすぐに並びかけ日本をかわしトップに躍り出る。それを日本とニュージーランドが追うも、徐々にニュージーランドがインドネシアに並びかけそのままかわし1位で1500mを通過。日本もここでインドネシアに並びかける。ラストクォーターで日本は必死にニュージーランドを追うがわずかに届かず2位でゴール。総合20位(21か国中)で大会を終えたが、Heatから20秒以上タイムを縮める頑張りを見せた。



ゴール前、必死のスパートでインドネシア(手前)を突き放し、ニュージーランドを追いかけるBM2xクルー。
左から S川上選手(早稲田大学)、B石井選手(日本大学)。

BW2x Final C

イギリスが飛び出し、チリ、日本、ウクライナ、インドネシアが追いかける。その中でチリと日本が抜け出し、2位争いを繰り広げる。第2クォーターに入ると、チリと日本の差がやや広がり始め、第3クォーターでも状況を大きく変えることはできず、ラストクォーターへ。ラストクォーターでも必死のスパートをかけるも先行するクルーには届かず3位でゴール。総合15位(17か国中)で大会を締めくくった。



ゴール前でスパートを入れるBW2xクルー(写真奥)。左から S清水選手(関西電力)、B浅井選手(新貞山RC)。

BM1x Quarterfinal 1

SemifinalA/B進出をかけた大一番。ニュージーランドが序盤から果敢に仕掛け、トルコが追いかけて、ハンガリー、デンマーク、日本、ウクライナと続く。1000mではトルコにかわされ2位となったニュージーランドから5位日本までの差は3.6秒差であったが、1500mを2位で通過したハンガリーと5位日本の差は3.33秒差とSemifinalA/B進出となる2位、3位を4か国で争う大激戦になってきた。

ラストクォーター、日本は必死に先行するクルーを捉えようとスパートを入れるが、3位ハンガリーとは2.29秒差でゴール。惜しくもSemifinalA/Bは逃したが、大いに健闘し会場を沸かせるレースをした。



SemifinalA/Bまであと2.29秒まで迫ったBM1x永坂選手(東レ滋賀:写真手前)。会場を沸かせる大激戦を演じた。

7月26日(土)の出漕クルー



10:12 (日本時間17:12)
BM1x Final C
永坂選手(東レ滋賀)

チュニジア
スイス
日本
ニュージーランド
オーストリア
スロベニア

ご声援よろしくお願ひいたします